

平成 27 年度

事業報告書

社会福祉法人 まほろば福祉会

## 目 次

- 法 人 本 部 . . . . . 1
  
- ワークステーションやじろべえ . . . . . 2
  
- ほっとすてーしょん 翼 . . . . . 9
  
- さ くら さ くら . . . . . 12
  
- 天 領 の 杜 . . . . . 16
  
- 地 域 支 援 局 . . . . . 20

## 平成 27 年度 法人事務局 事業報告書

### 1. 概 要

#### (1) 理事会・評議員会

##### ①開催実績

##### ○理事会（5 回）

- ・平成 27 年 5 月 14 日
- ・平成 27 年 5 月 21 日
- ・平成 27 年 9 月 25 日
- ・平成 28 年 1 月 20 日
- ・平成 28 年 3 月 18 日

##### ○評議員会（4 回）

- ・平成 27 年 4 月 20 日
- ・平成 27 年 5 月 21 日
- ・平成 28 年 1 月 20 日
- ・平成 28 年 3 月 18 日

##### ②主な議案として下記の 4 つの議案について承認を受けた。

- ・第 3 次東諸県地域拠点建設事業について
- ・今後の運営方針（中・長期）～まほろばビジョン～
- ・翼、さくら館隣接地の取得について
- ・更なる工賃向上に向けての機器整備について

#### (2) 報奨金の支給

全職員を対象に報奨金を支給した。（総額 1,585,000 円 134 名）

#### (3) 第 3 次東諸県地域拠点建設事業について

介護保険制度への移行に伴い、福祉ホームを退去しなければならない方々の居住の場と日中活動の場の確保を目的とした、有料老人ホーム、通所介護事業建設の基本計画を策定し承認を得た。

#### (4) 中長期経営計画策定について

6 月、プロジェクトチーム（委員 5 名、ワーキングメンバー 14 名）を立ち上げ計画の策定に取り組んだ。策定にあたっては、法人を利用して下さる方へのアンケート調査を実施し、その調査結果をもとにグループ会議や全体会議で中長期ビジョン（案）を検討し、3 月の理事会、評議員会において承認を得た。

#### (5) 職員全体研修の実施

7 月に法人全職員を対象に全体研修を実施。  
（テーマ「仕事」について：講師 藤崎相談役）

#### (6) 正職員登用

9 名登用——— 4 名新規採用、5 名契約職員から登用。

#### (7) 表彰関係

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長表彰受賞
- ・受賞者 翼事務員兼法人事務局員 坂元 博樹

### 2. 決算状況

別添決算書参照

## 平成 27 年度 やじろべえ 事業報告書

### I. 概 要

#### 1. 増築工事

定員 20 名の施設として開所したが、一日平均利用者数が約 37 名（平成 26 年度）となり、利用される方々に大変窮屈な思いをさせてきた。この課題を解決するために、昨年度隣接地の取得を行ったが、4 月から基礎設計の検討、6 月に既存建物の解体工事の実施、そして実施設計図の確定を受け、12 月に着工、平成 28 年 2 月末に完成した。



利用者の方々から「安心して利用できる」、「施設がとても明るくなった」、「憩いの場ができた」、「作業がしやすくなった」、「施設ではなく会社に行くような感じがする」と喜びの言葉をたくさん聞くことができた。これからも、まほろば福祉会の理念とやじろべえの理念を実現し、「笑顔と希望に満ち溢れる『輝くやじろべえ』づくり」に、利用者・職員が一体となって取り組んでいきたい。

#### 2. 施設の利用状況

##### (1) 就労移行支援事業

年度始めに就職者や生活介護事業への転所などがあったため、登録者数が 2 人にまで減り、利用率も大きく減少した。

● 一日平均 1.3 人、利用率 21.9%（前年度…一日平均 4.9 人、利用率 81.9%）

##### (2) 就労継続支援（B 型）事業

平成 26 年度末に定員を 34 人に増やし、新たな利用者の受け入れを行ったことで、一日の平均利用者数も定員数を超えた。

● 一日平均 35.0 人、利用率 103.1%（前年度…一日平均 32.5 人、利用率 106.2%）

##### (3) 共同生活介護事業

12 月から体調不良による長期入院者（8 月から 9 月にかけても同一疾病で入院）が発生したことで利用率が減少した。

● 一日平均 4.7 人、利用率 93.8%（年間入院及び外泊日数…延 114 日）

#### 3. 訓練等給付費の状況

##### (1) 就労移行支援事業及び就労継続支援（B 型）事業

平成 27 年度の報酬改定によって、就労移行支援事業の基本報酬が△4.8%、就労

継続支援(B型)事業が△1.3%となったこと、就労移行支援事業の利用者が減少したことなどから減収が予想されたが、定員を増床した就労継続支援(B型)事業の新規利用者が順調に増え、利用率も100%を超え微増となった。

● 訓練等給付費+利用者負担金 77,858,123 円(前年度…76,727,821 円) 前年対比 101.5%

#### (2) 共同生活援助事業

報酬改定では+1.8%であったが、一人の利用者が体調を崩し、12月から2月まで長期入院していた。65歳を超えていたこともあり、入院先から有料老人ホームへ転居した。

● 訓練等給付費+利用者負担金 12,828,373 円(前年度…12,934,162 円) 前年対比 99.2%

### 4. 一般就労の実績(就労移行支援事業)

6月に1名が「(株)エポックジャパン」に就職し、目標を達成することができた。現在も毎日自転車で通勤しており、先日、(株)エポックジャパンの担当者から「大変真面目で、仕事に責任感を持ち勤務していただいています。今後も長期での雇用継続を望んでおりますので、よろしく願いいたします。」とのうれしいお手紙をいただいた。今後も、職場定着支援を継続して行い、長く安心して働けるようにサポートしていく。

### 5. 工賃向上の取り組み(就労継続支援B型事業)

平成10年以降、最高売り上げを記録した昨年度と比較して、印刷事業、特殊印刷事業、請負事業とも売り上げが減少した。

#### (1) 印刷事業

官公需・民需とも受注が減少したが、直近5年間では2番目の売上額となった。その他、品質の安定化、原材料等の節減により利益率を上げることができた。

● 売上 23,954,875 円(前年度…28,314,873 円) 前年対比 84.6%。

#### (2) 特殊印刷事業

「東日本大震災チャリティー支援Tシャツ販売事業」が5年目(最終年度)となり、受注枚数・売上とも約6割に落ち込んだ。

● 売上 8,822,285 円(前年度…12,206,113 円)、前年対比 72.3%

#### (3) 請負事業

天候不順できゅうりの生育不良や暖冬で千切り大根の出荷量が激減したことによって減収となった。このことで作業のない日が続発した。新たな作業確保が喫緊の課題である。

● 売上 1,683,887 円(前年度 2,267,352 円) 前年対比 74.2%

#### (4) 利用者工賃

上記3事業とも減収となったが、利益率の改善を図ったことで目標額の20,000円を達成することができた。総支給額も初めて一千万円台を超え10,850,545円(月平均904,212円)となり、述べ515人(月平均43人)に支給することができた。

● 平均月額 21,069 円(前年度 18,096 円)

### 6. 共同生活援助事業(Yumeハウスやじろべえ)

家庭的な環境の中で、利用者が安心して生活できる支援体制づくりを目指して「ワークステーションやじろべえ」及び「さくら館(居宅介護事業)」と連携を図り、安定した事業運営が行えた。防災面では、職員一人体制であることから、利用者にも非常通報装置の操作訓練や消火器による消火訓練を行い、みんなが安心して生活できる体制づくりを行った。

その他、利用者の社会参加と利用者・職員の親睦を図ることを目的として、大分県（別府・湯布院）への一泊旅行を実施した。

## II. 施設運営状況（総務課）

### 1. 利用者の入退所状況

事業名	定員	期首	契約		退所				期末
			新規	変更	就職	変更	入院	他	
就労移行支援事業	6名	5名	0名	0名	1名	2名	0名	0名	2名
就労継続支援(B型)事業	34名	43名	5名	2名	0名	0名	1名	4名	45名
<b>合計</b>	<b>40名</b>	<b>48名</b>	<b>5名</b>	<b>2名</b>	<b>1名</b>	<b>2名</b>	<b>1名</b>	<b>4名</b>	<b>47名</b>
共同生活援助事業(GH)	5名	5名	1名	—	0名	—	1名	0名	5名
<b>合計</b>	<b>5名</b>	<b>5名</b>	<b>1名</b>	<b>—</b>	<b>0名</b>	<b>—</b>	<b>1名</b>	<b>0名</b>	<b>5名</b>

### 2. 利用状況

#### (1) 就労移行支援事業（定員 6 人）

● 目標 … 1日平均 4.0人

● 実績 … 1日平均 1.3人、利用率 21.9%（前年度…4.9人、81.3%）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
営業日数	22日	21日	22日	23日	21日	21日	
利用者数	79人	31人	29人	23人	21人	20人	
平均利用率	59.8%	24.6%	22.0%	16.7%	16.7%	15.9%	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	23日	21日	21日	21日	21日	23日	<b>260日</b>
利用者数	26人	21人	24人	21人	21人	25人	<b>341人</b>
平均利用率	18.8%	16.7%	19.0%	16.7%	16.7%	18.1%	<b>21.9%</b>

#### (2) 就労継続支援（B型）事業（定員 34 人）

● 目標 … 1日平均 34.0人

● 実績 … 1日平均 35.0人、利用率 103.1%（前年度…32.5人、106.2%）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
営業日数	22日	21日	22日	23日	21日	21日	
利用者数	759人	712人	768人	801人	721人	695人	
平均利用率	101.5%	99.7%	102.7%	102.4%	101.0%	97.3%	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業日数	23日	21日	21日	21日	21日	23日	<b>260日</b>
利用者数	819人	751人	745人	733人	783人	859人	<b>9,146人</b>
平均利用率	104.7%	105.2%	104.3%	102.7%	109.7%	109.8%	<b>103.5%</b>

### 3. 給付費関係

#### ■訓練等給付費等内訳

○ワークステーションやじろべえ

科目	事業名	平成26年度	平成27年度	前年対比
訓練等給付費収入	就労移行支援事業	10,968,843円	3,273,070円	29.8%
	就労継続支援(B型)事業	62,999,124円	72,035,750円	114.3%
利用者負担金収入		2,759,854円	2,549,303円	92.4%
合計		76,727,821円	77,858,123円	101.5%

○Yumeハウスやじろべえ

科目	事業名	平成26年度	平成27年度	前年対比
訓練等給付費収入	共同生活援助事業	10,472,380円	10,506,950円	100.3%
利用者負担金収入		2,461,782円	2,321,423円	94.3%
合計		12,934,162円	12,828,373円	99.2%

### 4. 防災関係

ワークステーションやじろべえでは、年2回の総合防災訓練のほか、AED操作等の訓練やDVD等を用いた防災教育などを実施した。

Yumeハウスやじろべえでは、様々な災害や火元の発生場所を想定した避難訓練（夜間想定含む）を2回実施した。また、日中及び夜間とも職員が一人勤務体制であることから、利用者の方にも119番通報の手順や消火器の使用方法などの訓練を実施した。

### 5. 研修関係

職種、経験年数など職員の状況に応じて、宮崎県社会就労センター職員研修会、九州授産施設研究大会、全国社会就労センター研究大会、宮崎就労支援ネットワークが開催する研修・講座や宮崎障害者職業センター主催の就労支援基礎講習、発達障がい者就労支援研修など、就労専門分野の研修会に参加した。また、個別支援計画の

虐待防止については、「宮崎県障がい者虐待防止・権利擁護連絡会議」、「障がい児者虐待防止に関する研修会」等に参加し、“虐待を絶対に起こさない！”という強い気持ちをもって支援にあたることを全職員に周知した。

### 6. 経費節減関係（エコ活動）

経費節減への取組みとして、エアコンの温度設定、コピー用紙の両面使用、昼休み・休憩時の消灯を継続して実施した。

その他、廃油回収を大塚上区自治会や地区内事業所の協力のもと行なってきた。今後も、エコ活動の一環として取り組む。（宮崎市買い取り額 1kg 30円）

■ 経費一覧

単位：円

	平成 26 年度	平成 27 年度	増減額	前年対比
電 気 料 金	944,202 円	1,025,861 円	81,659 円	108.6%
ガ ス 料 金	125,018 円	134,590 円	9,572 円	107.7%
上 下 水 道 料 金	133,837 円	162,598 円	28,761 円	121.5%
車 輛 燃 料 費	1,919,181 円	1,473,899 円	△445,282 円	76.8%
コピーカウント料	1,217,832 円	1,210,182 円	△7,650 円	99.4%
<b>合 計</b>	<b>4,340,070 円</b>	<b>4,007,130 円</b>	<b>△332,940 円</b>	<b>92.3%</b>

○ 車輛燃料費及びコピーカウント料は施設及び授産を含んだ額

Ⅲ. 各事業の状況（支援課）

1. 就労移行支援事業

(1) 就業者目標…1名 実績…1名 ※前年度実績…1名

● 平成 18 年 10 月以降 14 名が就職、4 名が雇用継続中

“家族葬のファミリーユ”で有名な「㈱エポックジャパン」に就職することができた。業務内容は、主に市内の各ファミリーユホールやみやそう会館の環境美化管理業務である。

(2) 個別訓練プログラムの充実

利用者の状況に応じた週間プログラムをたて、OA 機器操作訓練をはじめ作業的訓練、各種講習（エクセル・ワード・ビジネスマナー等）などを実施した。

(3) 障がい者委託訓練事業を活用し、職場実習を進める。

今年度の活用実績はなかったが、今後も県に登録している職場実習受入企業や、今まで就職や実習を行った有料老人ホームやホテルなどといった関係先と連携を図りながら、利用者の希望、障害の状況にあった職種を選定し、作業実習を中心とした実践的な職業訓練を行っていく。

(4) トライアル雇用の実施

今年度はトライアル雇用を活用せず就職することができたが、企業側にとって業務遂行の適性及び能力を見極めるよい機会となるため、機会があれば実施していきたい。

(5) ジョブコーチ支援の活用

今回は、ジョブコーチ支援の活用はせず、就労支援員のサポートのみであったが、今後は定着支援を含めて宮崎障害者職業センターと連携した支援を行っていく。

(6) アフターフォローの実施

現在 4 名の方が継続雇用中である。

雇用直後と一定期間経過して職場に慣れてきた後の課題は内容が異なるため、雇用後は集中的に就労支援員が訪問し、それ以降については、徐々に回数を減らしながらも定期的に訪問して、就職した方や事業主への相談・助言など 4 名に応じた定着支援を行った。特に今年度就職した方は二度目の就職で、最初の就職時の定着支援がうまく機能しなかった反省から、重点的に実施した。企業側から「長期の雇用継続を希望する」旨の手紙が届くなど良好な関係を築けている。

2. 就労継続支援（B型）事業

(1) 目標工賃…平均月額 20,000 円

実 績…平均月額 21,069 円（参考…時間給 273 円）



※前年度…平均月額 18,096 円（参考…時間給 238 円）  
 目標を達成することができた。

(2) 印刷事業と請負事業の受注拡大を目指す取り組み

① 印刷事業

- ・ 前年度は「障害者優先調達推進法」の浸透により官公需の受注拡大が図られたが、今年度は大口の受注が少なかったことなどで売り上げが減少した。
- ・ 印刷品質の安定化を図るために印刷経験者を雇用することができた。このことで印刷ミスが減少し、利益率の向上につながった。

② 特殊印刷事業（Tシャツ印刷等）

- ・ 様々な機器整備により、顧客のニーズに沿ったプリントが可能となった。
- ・ 「宮崎シーガイアジョギングユニファイド大会」といった大口注文を今年も受けることができた。
- ・ 全国身障協の「東日本大震災支援チャリティーTシャツ販売事業」は最終年の5年目を迎え、年数の経過とともに受注枚数が減り、前年度と比較して220万円ほど減収の2,950,000円となった。

③ 請負事業

- ・ 「ローソンファーム宮崎」のきゅうりの袋詰め作業、「中邨農園」の日向夏の袋詰め作業を主業務に切り替え、合間に「大坪農材」と「JA綾」の千切り大根の袋詰め作業を実施した。しかし、天候不順によるきゅうりの生育不良や暖冬による千切り大根の生産量の激減により、作業ができない日もあり収入が減少した。また、「富士」の箱折作業は爪痕がつくなどクレームが多々発生したため撤退した。
- ・ どの袋詰め作業にしても、企業側の求める袋への入れ方・仕上げ方があり、職員及びリーダー的利用者がチェックしているが、袋にしわが寄りすぎていた、向きが違っていた、空気が入りすぎていた、グラム数が合わなかったなどのクレームが多く発生した。仕事の流れ、機の配置など改善を行い、クレームはなくなった。しかし、新たに始めた「JA綾」は信頼関係を築くことができず、撤退となった。
- ・ 閑散期の作業、重い障害を持たれる方でもあたる作業など、様々なところへあたってみたが、求める作業の範囲が狭くなかなか良い作業が見つからない。新たな作業を確保できるよう継続して情報収集等を行う。

■就労支援事業収入内訳

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年対比	備考
印刷収入	21,860,203円	28,314,873円	23,954,875円	84.6%	
特殊印刷収入	12,894,155円	12,206,113円	8,822,285円	72.3%	
受託収入	945,430円	2,267,867円	1,683,887円	74.2%	
<b>合計</b>	<b>35,699,788円</b>	<b>42,788,338円</b>	<b>34,461,048円</b>	<b>80.5%</b>	

(3) 共同生活介護・共同生活援助事業（Yumeハウスやじろべえ）

- ・ Yumeハウスは、職員一人の勤務体制である。利用者・職員が安心できる支援体制を確立することが必要不可欠であるため、「ワークステーションやじろべえ」や「さくら館（居宅介護事業）」との連携を図っている。そのほか警備会社との委託契約により緊急時の通報システムも導入している。
- ・ 虐待防止への取り組みとして、世話人及び生活支援員全員を「障がい児者虐

待防止に関する研修会」に参加させるとともに、常に意識してもらうために毎月「振り返りシート」への記入や虐待にかかわる情報をその都度提供するようにした。

- ・ 「宿泊旅行（大分県）」、「社会体験（イオン、コスモス、ながの屋他）」、「忘年会」などの行事を実施した。
- ・ 全職員が情報を共有できるよう、職員会議を毎月第一木曜日に開催した。  
ケース会議のほか、個別支援計画及び各種記録の書き方や生活支援員・世話人のあり方等を話し合い、職員の専門性及び介護サービスの向上に努めた。

#### **IV. 決算状況**

別添決算書参照

## 平成 27 年度 ほっとすてーしょん翼 事業報告

### 1. 概要

#### (1) 新しい入浴体制の実施

通所生活介護及び短期入所利用者の増加により、従来の合同入浴では利用者のニーズに沿った支援が困難となったこと、職員の心身の疲労につながっていたことから、合同入浴を廃止し、それぞれの事業所にて入浴支援を実施できるように体制の見直しを行った。これにより、利用者の満足度を高めることができ、職員の負担軽減につながった。

#### (2) 旅行（翼TOUR）の実施

利用者からのニーズが多かった旅行(翼TOUR)を約3年ぶりに実施した。利用者へ希望を聞き旅行コースを選定(北海道、東京、大分、宮崎宿泊、日帰り)、行程も利用者と一緒に検討する等利用者と職員一緒に計画をして実施をした。計画段階から利用者が参加したことで、利用者の満足度も高いものとなった。

#### (3) 業務管理への取り組み

これまでの業務をゼロベースで見直すことで、職場環境の改善を図り、労働生産性を高めることを目的として、職員へアンケートを実施、今後活かすにはどのようにすればよいかを検討するため、試行的に検討委員会（業務抜本的見直し、魅力発信、職員の福利厚生、20周年事業企画）を設置・運営を行った。

また、リスクマネジメントの観点から、インシデントレポート・事故報告書実施要綱を作成した。これにより、介護・医療事故につながる潜在的な事故要因の把握、事故発生の防止、発生した介護・医療事故に対する適切な対応を図る基準や報告の手順、管理・活用について職員間の共通理解を図ることができた。

### 2. 事業の状況

#### (1) 入所支援

##### ① 入退所状況

- ・ 退所者は3名、うち2名の利用者が、9月と12月に心筋梗塞と心不全のため死去された。改めて「利用者の心に寄り添った支援」とはどのようなことか考える機会となった。また、1名の利用者がご家族の強いご意向があり、2月にご兄妹が生活されている日南病院へ転居された。
- ・ 新規入所者は、3名(5月、11月、3月)であった。うち、1名が在宅、1名が福祉ホーム、1名が病院からの入所であった。

##### ② 利用実績

- ・ 利用実績については、月平均30.3名の利用実績となった。
- ・ 入院については、前年度と比較すると延べ入院者数、入院日数ともに増加した。これは、長期入院や入退院を繰り返された利用者がいたことが原因と考えられる。

##### ③ 医療的ケアを必要とする利用者の増加

- ・ 高齢化、重症化により医療的ケアを必要とする利用者が増え、今年度は新たに胃ろう造設をされた方が1名、留置カテーテルの方1名となった。今後、職員の医

学的知識や専門性がより求められる。

- ・全国的にインフルエンザの流行が見られたが、入所においては利用者が1名罹患されたものの、施設内での流行はなかった。

〔入院者数〕

	平成 26 年度	平成 27 年度	前年比
延べ入院者数（名）	9	21	9
延べ入院日数(日)	162	253	162

(2) 総務課

- ・入院・退所等により定員 32 名のところ、稼働率が月平均 30.3 名となったため減収となった。

入所	平成 26 年度	平成 27 年度	増減	前年比
給付費	177,842,976	174,291,993	△3,550,983	98%
負担金	16,331,774	15,742,751	△589,023	
合計	194,174,750	190,034,744	△4,140,006	
(処遇)	(1,664,420)	(2,689,250)		

	平成 26 年度	平成 27 年度	増減
電気	3,124,018	2,725,882	△398,136
ガス	1,555,441	1,494,929	△60,512
水道	929,262	1,156,988	227,726
車輛燃料	599,820	506,900	△92,920
コピ代	633,881	765,413	131,532
合計	6,842,422	6,650,112	△192,310

(3) 地域生活支援

① 短期入所事業（日中一時支援事業）

(ア) 利用実績について

- ・延べ利用人数は107名、延べ利用日数は468日、1日平均利用者数は1.28名となった。前年度と比較すると、延べ利用人数は増加しているが、延べ利用日数は若干減少している。これは定期的に利用される方が増えたこと、短期間利用される方が多いことが原因として考えられる。

- ・ 日中一時支援は、入浴支援・送迎を希望される方が多い。また定期で利用される方も増加傾向にある。

〔利用実績〕（短期入所）

	平成 26 年度	平成 27 年度	前年比
延べ利用人数（名）	87	107	20
延べ利用日数(日)	477	468	△9

〔利用実績〕（日中一時支援）

	平成 26 年度	平成 27 年度	前年比
延べ利用人数（名）	23	31	8
延べ利用日数(日)	51	65	14

## ② 居宅介護

登録利用者数 49 名のうち、障害福祉サービス利用者が 45 名、介護保険利用者が 4 名いる。

登録利用者数は、前年度と比較すると障害福祉サービス利用者は 5 名減であるが、介護保険利用者数は増加傾向である。訪問回数は、障害福祉サービス・介護保険ともに前年度と比較すると増加している。

60 歳代が男性 5 名、女性 3 名おられ、ここ数年で介護保険へ移行する。障害福祉サービスと介護保険の適用関係に基づき、現在の生活の質を低下させることがないよう関係機関との連携を図りながら、住み慣れた場所で安心して自分らしい生活を継続できるように事業所としても取り組んでいく必要がある。

## 3. 決算状況

別添決算書参照

## 平成27年度 さくら館事業報告

### 1. 概要

#### (1) 総括

全職員参加のリハビリ・介護・ハウレンソウの3分野のプロジェクト(PJ)を中心に会議を重ねた。会議は20回にも上った。加えて、藤崎相談役の元、一年を通じて中堅職員研修を行い職場環境について意見を交わした。徐々にだが、サービスへの取り組む姿勢や職場内秩序が守られ、個人間・チーム間の連携がとれつつある。

利用者支援では、生活介護の退所者が4名。その理由が、経済的な理由や家庭の事情などで、利用を中止し、サービス終了に至った。在宅支援の難しさを痛感させられた。

#### (2) 個別支援への対応

『真のニーズ即支援目標』であり、それを実践するための具体的行動計画が個別支援計画書である。計画書の精度を高めるべく、個別支援計画書に関わる会議を増やした。結果、ケース会議が約130回、モニタリング85回、自宅での利用者面接が約30回、全体ミーティングは12回実施した。

#### (3) 利用者旅行

3年連続の利用者旅行を行った。旅行先は、人吉温泉で1泊2日旅行参加者は家族を含めて18名であった。今回の旅行は、職員の退職により職員体制が整わなかったため天領の杜へ男性職員1名の応援をお願いし、事故等もなく無事旅行を終えることができた。

#### (4) シェアハウス

4月から、欠員が発生していた「ひまわり」は、7月に3人目の入居者が決まった。相性の問題も、10年来の顔見知りの関係ということもあり、お互いが性格や障害を受け入れ、共同生活が8ヶ月経過している。

「クローバー」については、入居者の入れ替わりもなく、平成28年3月で丸5年が経った。クローバーでの近況は、入居者3名の家族の環境が変わりつつある。家族の要望と本人の希望にズレがあり、どのように支援していくのか考えさせられることがあった。

#### (5) 利用実績等

生活介護の年間受け入れ実績が、昨年度比で453名増となった。登録利用者数に増減がないことから、欠席者数の減少ということで分析できる。

#### (6) リハビリ強化

理学療法士のリハビリを本格的にスタートした1年。年間のリハビリ実施者数は、2366名、1日平均11名の利用があった。

専門的知識を職員が習得することで、リハビリメニューにも幅が広がり利用者が前向きに捉えてきていることが、リハビリ施行回数増に繋がっている。

【利用状況】生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
延べ利用者数	566	517	578	570	489	532	584	520
営業日数	22	22	23	23	22	21	23	22
月平均	25.7	23.5	25.1	24.8	22.2	25.3	25.4	23.6
3ヶ月平均	25.0	25.0	24.8	24.5	24.1	24.1	24.3	24.8
	12月	1月	2月	3月	合計			
利用者数	521	466	508	580	6431			
営業日数	21	20	21	23	263			
月平均	24.8	23.3	24.2	25.2	24.4			
3ヶ月平均	24.6	23.9	24.1	24.3				

【利用実績】

サービス種類	総収入				前年度比
	平成26年度		平成27年度		
	介護給付費	利用者負担金	介護給付費	利用者負担金	
生活介護事業	89,274,095	1,846,055	98,308,432	1,886,718	109.9%
居宅介護事業	82,203,558	1,671,223	95,298,223	1,323,619	115.1%
外出介護事業	6,147,797	767,314	5,435,710	597,157	87.2%
訪問介護事業	4,517,442	3,791,495	4,279,770	3,956,177	99.1%
合計	190,218,979		211,085,806		110.9%

【事業別】

生活介護事業	91,120,150	100,195,150	109.9%
居宅介護事業	99,098,829	110,890,656	111.3%

【諸経費支出実績】

	平成26年度	平成27年度	増減額	前年度比
コピー使用料	276,114	345,591	69,477	125.1%
電気料金	1,712,330	1,807,090	94,760	105.5%
ガス料金	1,176,350	1,135,570	40,780	96.5%
水道料金	981,002	1,040,450	59,448	106.0%
食材料費	2,420,383	2,622,091	201,708	108.3%
生活（ガソリン）	1,630,362	1,440,305	△190,057	88.3%
居宅（ガソリン）	1,209,548	1,261,754	△52,206	104.3%
合計	9,406,089	9,652,851	246,762	102.6%

## 2. 各事業の状況

### (1) 生活介護

#### ①個別支援計画書

サービス等利用計画書より明らかになったニーズを個別支援計画書から実践を通して、個々に対してのサービス提供を行ってきた。利用者の方が抱える課題の解決や適切なサービス利用に向け、モニタリングやケース会議・ヒアリングなど年間200件を超えた。ヒアリングの時は、相談員と同行するなどして家庭訪問を行うなどした。職員もヒアリングやモニタリングの回数を重ねるごとに、本人のニーズを的確に掴み新たなニーズとして取り上げるケースも目立った。

#### ②四季のイベント

3月の花見。8月の納涼祭。10月のさくら館運動会。12月の利用者忘年会。全てのイベントで40名を超す参加者で好評であった。全てのイベントが金曜日に集中していたことを改善し、各曜日に振り分けることとした。

半日園外活動については、時間の制約に対応出来ず、バタバタ感が残った。

利用者の一部の方は園外には行かずにさくら館でゆっくり過ごしたいという声もあり、居残りサービスも含め再検討することとなった。

#### ③防災訓練

年2回の総合防災訓練をはじめ、月1回の自主訓練を行った。講師等も積極的に招き、講話も多く取り入れることで、利用者及び職員の防災に対する啓発に努めた。防災士による防災訓練を実施できた。

#### ④職員研修の強化

県社協主催の一般研修は、全ての職員が受講した。施設内での研修は、2ヶ月に1回のペースで実施することができた。

#### ⑤地域連携の充実

地域自治会への特別会員として、行事等（古墳祭り・避難訓練）に参加をした。

#### ⑥給食サービスの充実

四季折々の給食の提供に努めた。春はお花見焼肉、夏はソーメン流し、秋は山菜料理、冬は鍋料理などで舌鼓を打った。お楽しみバイキングに関しては、3回実施することが出来た。

また、毎月行われる利用者を交えた給食会議から「実演でラーメンが食べたい」というニーズに応え、大塚台にあるラーメン悠溜里（ゆるり）にお願いしたところ、快く引き受けてくださった。利用者も大変喜んでくれた。

### (2) 居宅介護

#### ①外出介護事業

利用者の増減は無かった。

#### ②居宅介護・重度訪問介護事業

少ない人手の中、早朝派遣から夕方派遣・夜間派遣と横並びの派遣を地域性などを考慮し、いくつかの派遣パターンを作って派遣調整している。さまざまな理由から一人でもヘルパーが欠けるとローテーションが大きく乱れ、労働環境の悪化に直結することが想定される。今年もヘルパーの増員が無かったが、離職者も0であった。労働環境の整備と仕事のやりがいなどを伝えていく事が進み、人材を探すことから育てることにつなげたい。

#### ③シェアハウス支援の取り組み

クローバーは、5年を経過して落ち着いた生活が出来ている。入居者同士で生活パターンを理解しあっていることも理由としてあげられる。ひまわりも2年4ヶ月経過



し安定した生活を送っている。

④介護保険事業（訪問介護）

利用者の増減は無かった。

⑤ヘルパー研修

研修や会議、支援者会議といった小規模のものが多かった為、引き続き次年度の取り組みとして課題とする。

また、利用者からの苦情が寄せられるケースが数件あった。ヘルパー個人の能力を見極め介護技術・コミュニケーション支援技術などヘルパーへの個別化した指導育成が必要となる事態があった。

⑥モニタリング業務の取り組み

受給者証更新時に、計画書の見直しを含めたモニタリング訪問や利用者及びヘルパーに係る場面の実践モニタリングが十分できていなかった。

⑦その他

前年度の事業報告に上げた利用者ヘルパーの信頼関係が修復について、現在も派遣が偏っている状況にある。利用者本人とそのご家族は支援の拒絶に至ったヘルパーへの不信感が強く、問題解決は困難と思われる。

3. 決算状況

## 平成 27 年度 天領の杜 事業報告書

### 1. 概 要

- ・ 平成 28 年 1 月 12 日、創立 5 周年となることから、1 月 9 日に利用者の皆様、ご家族の方々とともに創立記念のお祝いを行った。
- ・ 生活介護の利用延べ人数増による給付費収入増を大きな要因として給付費収入合計が 26 年度比 9, 9%の増となる見込みである。
- ・ 居宅介護、外出介護も前年を上回る実績見込みであるが、訪問介護は対象者がいなくなったためゼロ計上の見込みである。
- ・ 諸経費のうち、電気料金の減は陶芸用の電気炉の故障・外注変更によるもの、水道料金の増は漏水の可能性が疑われるため、現在、調査中である。ガソリン料金の減は、単価の下落によるものと考えている。

給付費収入一覧（平成 27 年度は見込額）

単位：円

福祉サービス種類	給付費				前年比 (%)
	平成 26 年度		平成 27 年度		
生活介護	給付費	41,271,946	給付費	49,903,040	120.9
	利用者負担金	932,773	利用者負担金	1,219,240	130.7
居宅介護	90,953,530		95,546,000		105.0
外出介護	給付費	3,579,944	給付費	4,174,500	116.6
	利用者負担金	470,105	利用者負担金	207,500	44.1
訪問介護	給付費	176,094	給付費	0	0
	利用者負担金	50,166	利用者負担金	0	0
合 計	137,434,558		151,050,280		109.9

諸経費支出（平成 27 年度は見込額）

単位：円

	平成 26 年度	平成 27 年度	増減額	前年度比 (%)
電気料金	1,405,979	1,298,738	-107,241	92.3
ガス料金	282,522	245,103	-37,419	86.7
水道料金	321,412	420,120	98,708	130.7
浄化槽	186,200	242,468	56,268	130.2
ガソリン料金	1,346,821	1,225,679	-121,142	91.0
合計	3,542,934	3,432,108	110,826	96.8

### 2. 生活介護事業

- ・ 27 年度の月別の生活介護利用実績は下表のとおりである。
- ・ 生活介護の利用者は 2 名の利用者増と毎日利用者の増により、月平均で 0, 9 人、延人数で 681 人増加し、給付費収入増に貢献することができた。
- ・ 27 年度も祝日営業を行い、平日とほぼ変わらない利用者数で営業することができた。

- ・ 福岡への利用者旅行を企画し 10 名が参加し、無事、日程を終えることができた。

(課 題)

- ・ 利用者個々の要望に対して、スタッフ、設備面などの制約により対応が十分とは言えない部分があるため、より一層、創意工夫を凝らしてサービス向上に努めていくこととしたい。
- ・ 平成 27 年度において、管理者、サービス管理責任者、支援員それぞれの役割を意識した記録、サービス内容の把握、モニタリング、個別支援計画の見直しの流れを整理したが、その定着に向けて努力していきたい。
- ・ 個別支援計画に基づいた利用者支援を基本に支援員としてどのような支援を行ったかという視点での記録の徹底を図っていきたい。

月別生活介護利用実績

単位：日

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所日	H26	22	22	22	24	23	22	23	21	22	20	20	22	263
	H27	22	20	22	23	22	21	22	21	22	20	20	23	258

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
月平均	H26	11.1	10.2	12.6	10.8	11.9	11.8	11.3	9.2	12	12.7	13	14.5	11.8
	H27	14.6	14.1	14.1	13.1	14.1	15.0	15.5	15.0	14.5	15.8	15.5	15.0	14.7
延人数	H26	244	225	278	261	274	261	235	194	266	255	261	321	3,102
	H27	322	281	311	301	310	314	342	314	318	315	310	345	3,783

生産活動について

- ・ 27 年度は、青島神社への皿の販売が中止となったために、それに代わるものを模索したが穴埋めする事が出来なかった。
- ・ バイオディーゼルについては、軽油 の値段が下がってきていることもあり、購入者が減少しているが、27 年度から宮崎オーガニックフェスティバルの協賛に名を連ね、天領の社のバイオディーゼルの製作・販売の P R を行った。

単位：円

品 目	26 年度売上	27 年度売上	前年度比 (%)
皿	1,420,290	3,250	0.2
バイオ	527,000	204,000	38.7
農産物	51,340	67,950	132.3
合 計	1,998,630	275,200	13.7

### 3. 居宅介護事業

- ・ 福祉ホームには多くの重度障がい者が入居されていることから登録ヘルパーだけでは難しい支援の実態が見られる。こうした現状に対応するために生活介護との兼務職員を増やし、登録ヘルパーとの協力体制を築きながらサービスの提供を行っている。土日も職員が出勤することで利用者の方々に不安のない生活が送れるような支援体制の継続に努めていくこととしたい。
- ・ 27年度は福祉ホームのレクリエーションを4回実施し、利用者間、及び職員との親睦を図る機会を増やし、楽しい住まいの場づくりに努めた。

月別居宅介護事業利用者実人数

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅介護	H26	8	8	10	10	11	11	9	9	11	10	11	11	119
	H27	11	12	11	12	12	12	11	11	11	10	10	11	134
重度訪問介護	H26	4	5	5	3	3	3	3	3	2	2	2	2	37
	H27	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
外出介護	H26	10	11	11	11	11	11	9	10	11	11	9	10	125
	H27	11	12	13	13	11	10	12	11	11	11	11	12	138
訪問介護	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 4. 福祉ホーム・喜楽家

- ・ 26年度に、利用者の中からインフルエンザに同じ日に3名が罹患し、職員にも症状が現れたことを踏まえ、利用者、職員の健康管理表を作成するなど予防対策の徹底に努めた。
- ・ 感染症対策として、ノロウイルス警戒時期に清掃（消毒）日報による事業所内の消毒の確認と徹底を図った。

### 5. 防災訓練・点検

- ・ 下表のとおり訓練・点検を実施した。

月	実施内容	月	実施内容
4月	消火器点検	10月	総合訓練
5月	防災設備点検	11月	防災設備点検
6月	AED操作訓練	12月	夜間想定訓練
7月	防災設備点検	1月	防災設備点検
8月	消防署立ち入り検査	2月	防災設備点検
9月	防災設備点検	3月	総合訓練(夜間想定)

## 6. 職員研修

- ・ 宮崎県社会福祉協議会主催の職員研修等にほぼ全職員を参加させ、職員のレベルアップに努めた。
- ・ 内部研修としてOJT研修に8回取り組み、日頃の業務の中から抽出された問題点・課題を提起し、解決に向けての論議を深めた。
- ・ 専門研修に参加することで職員の専門性の向上に努めた。  
福祉機器専門職員研修会 1名  
重症心身障がい児者医療体制事業—在宅サービス充実と人材育成のためのセミナー 1名

## 7. 決算状況

別添決算資料参照

## 平成 27 年度 地域支援局 事業報告

### 1. 概 要

地域支援局では、生活介護、通所介護、BE・FREE、Be Fine、相談サポートまほろばが連携することで、利用者に個人の意向を尊重した、「自分らしい生活」が実現・継続できるよう一体的な運営に努めている。

### 2. 事業の状況

#### (1) 通所生活介護・通所介護(介護保険)

##### (ア)生産活動

・千切り大根の袋詰め・計量については、生産活動フロアにて営業日は毎日実施している。生活介護ばかりでなく、入所、通所介護の利用者の参加も多く、利用者間の交流の場ともなっている。お茶の袋詰め・販売については 2 週に 1 回の割合で生活介護のフロアにて作業を行っている。

##### (イ)創作活動

・ぬり絵や翌月のカレンダー作成が主であるが、27 年度は月別の予定で料理教室を行い、利用者自ら調理をする機会を持つことができた。

##### (ウ)リハビリテーション

・PT による機能回復訓練を月曜を除く平日の午前中に実施している。個々のリハビリ計画に基づくプログラムの実施とリハビリメニューに基づいた自主訓練も実施できている。また、第 3 土曜日にはリハビリを主体とする営業を行っており、参加人数も多くなっている。

##### (エ)実績について

・生活介護では、新規利用者や利用日数の見直し等により前年と同程度の実績となっているが、通所介護においては、介護保険への移行の関係で平均利用者数が前年に比べ増加している。人員的には 2 名程度の増であったが、今後も増加は確実で、支援の在り方等の調整が必要となってくる。

#### 【利用実績】(通所生活介護)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	対前年比
稼働日数	263 日	263 日	263 日	±0
延べ利用人数	5660 名	5781 名	5733 名	-48 名
1 日平均利用者数	21.5 名	22.0 名	21.8 名	-0.2 名

## 【利用実績】（通所介護）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	対前年比
稼働日数	263 日	263 日	252 日	-11 日
延べ利用人数	631 名	697 名	867 名	+170 名
1 日平均利用者数	2.4	2.7 名	3.4 名	+0.7 名

### （オ）課 題

・生活介護において、利用者の多い曜日などに、利用者個々のニーズに対応が困難となる場合が見られている。支援のあり方に一貫性を持つように努めているが、利用者個人のニーズの把握が十分でないこと、技術の不足も起因している。アセスメントの回数を増やし、記録に残して共有することや、個別支援計画の再確認、介護技術を共有するためのミーティング等を行って改善に努めている。また、利用計画を含めた検討を行うことで、本人の日常生活を理解し、その上で日中の支援につなげていきたい。

### （２）福祉ホーム BE・FREE、Be Fine

・BE・FREE では、開所 20 年を記念して 6 月 13 日 BeFine の会議室で利用者を中心に記念行事を行った。  
・BE・FREE では、1 名の方の退去があり、1 名が入居され新たな生活を送っている。  
・BeFine については、紹介や見学等から入居の調整を行っているが、実際の入居までは至らなかった。  
・健康面では利用者の緊急時等に入所・通所の Ns による対応を行っている。日常生活では、主に外出等の予定の確認を行っているが、利用者の状況が確認できるように、事業所間での情報提供をこまめに行い、本人のニーズに添えている。

### （３）相談サポートまほろば

・法人内の各事業所の利用者を中心に、各事業所職員の協力を得て利用計画の作成、モニタリング、更新に取り組んだ。また、新規の利用者から当法人の福祉サービスの利用につながった利用者も 10 名となっている。

### （ア）一般相談

・各施設、外部の利用者を対象として、福祉サービスの利用のほか日常生活における諸問題（住環境、健康、医療、家族関係、対人関係、経済、社会参加等）についての相談支援を行った。利用計画の作成時に一般相談となる場合がほとんどで、他機関との連携や、諸手続きの代行等で時間がかかるケースも少なくない。

### （イ）計画相談

・利用計画を作成することで、福祉サービスの利用ばかりでなく、利用者個人の日常生活を理解することが出来た。それぞれの事業所の個別支援計画と連携することで、より質の高いサービス提供に努めたい。

## 【利用実績】

(単位：件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計 画	H27	20	7	11	21	17	3	15	14	10	16	16	12	162
	H26	10	14	16	26	15	15	20	20	14	16	9	11	186
モニタリング	H27	22	26	26	22	22	19	22	18	30	7	7	20	241
	H26	8	5	10	3	11	11	8	18	10	22	14	11	131
合 計	H27	42	33	37	43	39	22	37	32	40	23	23	32	403
	H26	18	19	26	29	26	26	28	38	24	38	23	22	317

## 3. 決算状況

別添決算書参照